

三軒茶屋駅周辺における公共機能の向上について

(付議の要旨)

就労関係施設を三軒茶屋分庁舎に集約化し、三軒茶屋駅周辺における公共機能を向上することを決定する。

1 主旨

三軒茶屋は、交通利便性が高く、世田谷区基本計画においても「広域生活・文化拠点」に位置付けられ、多くの人で賑わう、産業や文化の中心地である。公共施設という点からも、三軒茶屋の特徴を踏まえ、区民利用施設や行政手続き施設、就労関係施設、産業施設、文化芸術・交流施設などが集まり、利用者数が増加している一方で、新規での整備や拡張できる公共施設の場所の確保が難しい状況である。

このような状況の中、現在三軒茶屋分庁舎5階にある世田谷区民会館別館「三茶しゃれなあどホール」(以下、「三茶しゃれなあどホール」という。)が移転した後、STKハイツにある就労関係施設を移転し、産業部門との複合化を図り、機能向上を図る。また、今後、三軒茶屋駅周辺における公共施設の機能を計画的に向上していくため、基本的な考え方を検討・策定し、既存の公共施設等のスペースを活用した公共施設の最適配置を行っていくものとする。

2 三軒茶屋の現状及び区の対応

(1) 区民利用施設・行政手続き施設

令和6年6月、三茶しゃれなあどホールの機能維持・向上、また、太子堂の出張所の混雑緩和及び増加するマイナンバーカード手続きに対応するため、現在三軒茶屋分庁舎5階にある三茶しゃれなあどホール及び、キャロットタワー2階にあるマイナンバーカード専用窓口、あわせてエムケイアースビルにあるマイナンバーカード事務室を、新規で整備される昭和信用金庫三軒茶屋支店への移転を実施する。(令和4年9月6日DX推進・公共施設整備等特別委員会報告)

なお、移転により一定の改善は図られるものの、太子堂出張所についてはさらなる混雑緩和に向けた対応を検討する。

(2) 就労関係施設

三軒茶屋分庁舎内に、三茶おしごとカフェ、ワークサポートせたがやを併設して設置し、年齢を問わず、一般就労を対象とした職業紹介を行うとともに、区内企業の求人開拓や定着支援、キャリアカウンセリングなど、就労にかかる総合的な支援を実施している。

また、令和4年度、STKハイツに、生活困窮者支援機関のぷらっとホーム世田谷(以下、「ぷらっとホーム」という。)、若者支援機関のメルクマールせたがや(以下、「メルクマール」という。)による、ひきこもり相談窓口「リンク」を開設し、併せて、せたがや若者サポートステーション(以下、「サポステ」という。)を集約し運用を開始している。ぷらっとホーム及びサポステは就労支援の機能を有しており、三茶おしごとカフェや障害者就労支援センター等との連携にも取り組んできた。

(3) 男女共同参画施設

三軒茶屋にあるグレート王寿ビル内の区立男女共同参画センターらぷらす（以下、「らぷらす」という。）において、女性のための悩みごとやDV相談、セクシュアル・マイノリティのための世田谷にじいろ相談、男性電話相談などの各種相談業務に加え、女性の転職・再就職や、仕事と家庭・子育ての両立に向けた働き方のサポートを実施している。また、女性の起業を支援するため、女性起業家と出会い、つながる場所として、女性起業家ひろばの運営や、起業メッセなどを実施している。

3 三軒茶屋の各施設の課題

今後、三茶しゃれなあどホール及びマイナンバー窓口の昭和信用金庫三軒茶屋支店への移転に伴い、区民利用施設及び行政手続き施設については改善が図られるものの、以下の課題に対応する必要がある。

(1) 就労関係

- ①三茶おしごとカフェの利用者数及びワークサポートせたがやの新規求職申込者数は、減少傾向にある。また、世田谷区を管轄するハローワーク渋谷の有効求人倍率は令和4年4月以降継続して上昇傾向にあり、令和5年3月の有効求人倍率は約2倍となっており、区内事業者の人材の確保に向けて、産業部門が様々な就労希望者に、効果的に仕事の魅力を伝える仕組み、就労部門との一体的な連携体制の構築が必要となっている。
- ②働くことに悩みを抱える区民に対して、ぷらっとホーム、サポステなどで相談を受け付けているが、本人の抱える課題が複雑化・複合化したケースが多く、他の就労関係機関とのさらなる連携強化を図り、確実なつながりを行うためには、現在の就労関係機関同士の移動距離も課題となる。
- ③支援件数が増加しているが、職種別求人は「軽作業・清掃・交通誘導他」が多く、仕事のバリエーションが限られており、就労を希望する方に合った仕事の開拓が進んでいない。
- ④就労までにステップが必要な方に向けて、ボランティアや、事業所での短時間就労、仕事の体験の場を広げるなど、地域でのさらなる就労資源開拓が必要である。
- ⑤ぷらっとホーム、メルクマール、サポステの集約により、複数の視点を生かしたアセスメントの充実や、ひきこもり相談と並行し、有償ボランティア等の就労に向けた準備プログラムを活用するなど、就労機能とひきこもり相談機能との連携による対応力の強化が図られるなど一定の効果があがっている。ぷらっとホームとともに、ひきこもり相談窓口「リンク」を担っている若者支援機関のメルクマールについては、令和4年度の延べ相談件数が4,850件となり、令和3年度の3,857件から大幅に増加し、また、令和4年度は新規相談登録件数が122件と、登録件数が過去最多となっている状況にある。一方で、STKハイツの窓口・相談室の混雑や、職員の増加等による狭隘化という課題が生じている。

(2) 男女共同参画関係

- ①女性の転職・再就職支援にあたり、らぷらすでは悩みごとや働き方のサポートなど生活面での支援を実施しているものの、職業紹介やリスキリングなど就労支援の機能を有しておらず、また、就労部門との連携も不足しているため、一体的な支援が実施できていない。
- ②女性の就業環境整備に向けた区内事業者への働きかけについて、区内事業者との繋が

りが薄いため、効果的に実施できていない。

- ③女性の起業支援にあたり、女性同士のコミュニティづくりを行っているが、中小企業診断士等による融資や経営に係る総合的な相談、事業を軌道に乗せるために必要な専門家による伴走支援との連携が不足している。

4 公共機能向上の基本的な考え方の検討

三軒茶屋は、交通結節点であり、人が集まりやすく、また、人流も多いという特徴から、本庁舎完成時期を見据え、適切な時期までに、人の集約ができる施設の魅力化や、太子堂出張所のさらなる混雑緩和による行政サービスの利便性の向上、また、人材確保につなげられるよう、該当する機能をどのように配置し、相互連携を図っていくかについて、引き続き検討し、考え方をまとめていく。

5 集約施設

令和6年度に三茶しゃれなあどホールの移転に伴い生じる三軒茶屋分庁舎5階フロアの空きスペースを活用し、3（1）（2）における課題などの解決に向けて、STKハイツにある「ぷらっとホーム」、「メルクマール」、「サポステ」を集約・配置し、さらに、女性や高齢者、障害者などに係る就労部門と分庁舎にある機能との連携を強化することで、次のとおり機能向上を図る。（施設配置図は別紙のとおり）

- （1）三軒茶屋分庁舎において、就労部門と産業部門が一つの建物に集約し、連携体制を構築することで、一般就労へのマッチング支援を強化するとともに、様々な区民の就労希望の実現と区内産業の人材確保を一体的に推進し、ユニバーサル就労の実現を図っていく。
- （2）ぷらっとホームによるオーダーメイド求人の開拓・定着支援、また、サポステによる仕事の体験の場の開拓やジョブトレーニングについて、区内産業団体との連携を強化することで、就労を希望する方に合った様々な仕事の開拓を図り、一般就労、短時間就労、仕事の体験などへのマッチングを推進していく。
- （3）福祉人材育成・研修センター、産業振興公社等と連携し、リスクリングから就労マッチングを一体的に進めることで、区内産業に適した人材の育成を図る。
- （4）らぷらすによるセミナールームや相談室・会議室などを活用した出張相談やサテライト機能を設け、女性などの生活面に係る様々な相談を実施することで、就労面と生活面の一体的な支援を行う。また、産業振興公社や産業団体などと連携し、女性の就労環境整備に向けた事業者への働きかけや、女性の起業にあたっての中小企業診断士や専門家による総合相談を実施する。
- （5）シルバー人材センターについても同様に出張相談などを実施し、おしごとカフェやハローワークでの仕事にマッチングしなかった高齢者に対して、会員登録及び受託事業のマッチング、技能講習などによる本人の職域の拡大を図っていく。
- （6）障害者就労支援センターについて、区内産業団体との連携を強化し、障害の特性に応じた仕事の開拓、マッチング機能を強化する。
- （7）各施設の集約・複合化による重複機能の整理、会議室やセミナールームの多目的での利用や共有による稼働率の向上、共有部分面積の縮減等により、支援件数の増加に伴う相談・支援スペースを拡充でき、施設運営の効率化を図る。

6 設置機能

《移転後のフロア機能》

階層	機能	面積	現施設との面積比較
5階	ぷらっとホームせたがや	約 187 m ²	約 4 m ² 増
	せたがや若者サポートステーション	約 90 m ²	約 18 m ² 増
	メルクマールせたがや	約 124 m ²	約 65 m ² 増
	相談室・会議室 *1	約 181 m ²	約 41 m ² 増
	セミナールーム *2	約 54 m ²	約 54 m ² 増

*1 面積を拡充するとともに、各施設の共有利用を可能な形態とし、利便性向上を図る。

*2 新設の共有のセミナールームを整備し、各施設が様々な目途で活用が可能。

7 概算費用等

現在の STK ハイツの 2 階～ 5 階部分（賃貸借料 年間 4,062 万円）を返却し、三軒茶屋分庁舎 5 階フロア（賃貸借料 年間 4,446 万円）を引き続き借りることで、現在の面積 687 m²から 883 m²へと拡充し、機能充実を図っていく。

8 今後のスケジュール（予定）

令和 5 年 9 月	DX・地域行政・公共施設整備等推進特別委員会報告
令和 5～6 年度	内容調整
令和 6 年 6 月	三茶しゃれなあどホールの昭和信用金庫三軒茶屋支店への移転
令和 6 年 6 月以降	三軒茶屋分庁舎 5 階改修工事、就労・産業部門の集約・複合化

